

## 第6回かながわ寄付をすすめる委員会 結果概要

日時 平成23年11月4日（金） 10時～12時

場所 かながわ県民センターコミュニティカレッジ講義室2

出席者 委員8名（渡邊委員欠席、傍聴者なし）

新しい公共支援事業「寄附促進に向けたNPO認知度向上事業（かながわ寄付をすすめる委員会企画）採択事業者2団体

### 1 開会

### 2 協議

#### (1) キャンペーンに関する広報活動について

- キャッチコピーを、投票結果に基づき、「寄付はわたしの社会貢献」とすることとした。
- 予定している広告、リーフレット、Webサイトや県の広報媒体を活用した広報活動について、全体像、進捗状況、及び今後のスケジュールについて確認した。

#### (2) 来年度の事業構成について

- 来年度の事業構成について、今年度の状況などを踏まえ、次回の会議までに意見集約することとした。
- 今年度第4四半期において、委員会が自ら実施する企画の可能性について意見交換した。

#### (3) キャンペーンにおける事業の実施について

- 神奈川県新しい公共支援事業運営委員会において選定された事業者（2団体）から、事業企画提案の内容について説明を受け、質疑を含め、事業効果を高めることを目的に、今後の展開に関する意見交換を行った。

### 3 閉会

～主な発言～

#### <キャッチコピーの選定について>

- ・年齢などの属性によって選ぶものに偏りが生じるのはいたしかたない。そうしたことを踏まえ、今後、選定したコピーをどのように使用していくかが重要である。

#### <現在予定している取組みについて>

- （事務局）鉄道広告について、一都三県が相互に乗り入れる提案は実現しなかった。
- （事務局）委員会が企画し提案を募集した事業については、神奈川県新しい公共支援事業運営委員会において、上限4件のところ2件の選考となった。審査において、提案者に趣旨が伝わっていなかったという指摘があった。
- ・キャンペーンの趣旨を説明する文案は、中学生が理解できるような平たい表現にしたほうがよい。
- ・参加する立場の側に軸を移して、表現を考えるとよい。
- ・リーフレットは、Webサイトに掲載してダウンロード可能にしてほしい。県内各地の市民活動支援機関が地域版を作成できるよう、編集可能にすることなどが考えられる。また、地域版をサイトに掲載してもよい。

#### <本年度後半の取組みと来年度の事業構成について>

- ・第4四半期に、もう一押しする企画がほしい。公募の時間がなければ、委員会が自力でも取り組んだほうがよいだろう。
- ・来年度事業は、今年度の反省点を踏まえ、同様の組み立てでよいのか見直す必要があるだろう。

#### <委員会企画への提案事業に関する意見交換>

##### ○提案事業者：NPO法人ぐらす・かわさき

- ・市民ファンド運営に役立つノウハウを吸収して、神奈川県に歴史に残るような有益な活動となることを期待している。
- ・地域からの寄付を集めるので、支援者が納得するような使い方をしたい。（事業者）
- ・事業期間が短くスケジュールがタイトである。地域への浸透が進んでいるか確認しながら、時には先送りする勇気も必要だと思う。
- ・寄付がどのように活かされていくかの過程を見せることは、次につながる重要なポイントである。
- ・資金集めは大変である。共感につながるイベントなどの工夫が必要である。

##### ○提案事業者：公益社団法人日本フィランソロピー協会

- ・子どもたちで寄付を募る場合、信用面で大人の適度なフォローも必要。
- ・子どものペースにつきあえる大学生ぐらいがよい。（事業者）
- ・学校に持ち込まれるプログラムは、多忙な先生方が咀嚼しきれないまま実施される例がある。
- ・校長個人の理解に頼らず、教育委員会などの組織的な理解を求めていく。提案するプログラムがいかに子どもの力を高めるものか、理屈を整理していきたい。（事業者）
- ・押し付けでなく、地域の人々が地域のために取り組むNPOなどにつながる取組みを期待したい。
- ・将来的には、事業費を確保したうえで、地域のNPOを育成する視点で、地域の間支援組織が業務として継続的に実施していけることが必要だと考える。（事業者）